

## 物議を醸す贅沢品減税案

昨今、中国では物価の上昇が大きな問題になっている一方、輸入贅沢品に対する減税が検討され、物議を醸しています。そもそも何故今、輸入贅沢品への減税が検討されているのでしょうか。

それは中国人が購入する贅沢品の多くが外国ブランドであり、しかもその多くが中国国外で購入されていることに起因します。世界贅沢品協会の調査では、中国は2012年に世界最大の贅沢品消費国になると予測されていますが、一方でこれら贅沢品のおよそ8割が海外で購入され、毎年数百億米ドルもの資金が海外に流出しており、こちらはすでに世界一となっています。これらの消費を中国国内に呼び戻すことが、今回輸入贅沢品に対する減税が検討される背景となっています。

輸入化粧品を例に挙げると、現状では、商品価格に関税10%、増値税17%、消費税30%がそれぞれの流通段階で課税されており、国際的にも高い水準にあります。これを引き下げることで内需の拡大と輸入の増加による貿易不均衡の是正を図ることができます。半面、中国国内の化粧品メーカーに対しては打撃を与えることになりかねず、諸刃の剣になることが危惧されています。

また減税がすぐさま輸入贅沢品の値下げにつながらないとの見方もあります。中国では高級品はより高いものから売れていく傾向があり、特にブランド品の場合はイメージの維持のため、全く値下げされないか或いはしてもわずかであることも考えられ、減税の効果に疑問符が付けられています。

この他、輸入贅沢品への減税は、税の目的の一つである富裕層と貧困層の間の富の再配分の調整機能を弱めるといった議論も加わり、マスコミや消費者の注目を集めています。また、贅沢品への減税は内需拡大の一つの方法にすぎないとも言われ、実行にあたっては今後も検討がなされる模様です。

### ○大連の高級ショッピングモール



海外のブランドショップが多数立地する人民路（写真左「大連タイムズスクエア」、右「名店坊」）



大連一の繁華街・青泥洼橋に立地する「百年城」